

図 13 性的指向別 HIV 抗体検査受検経験

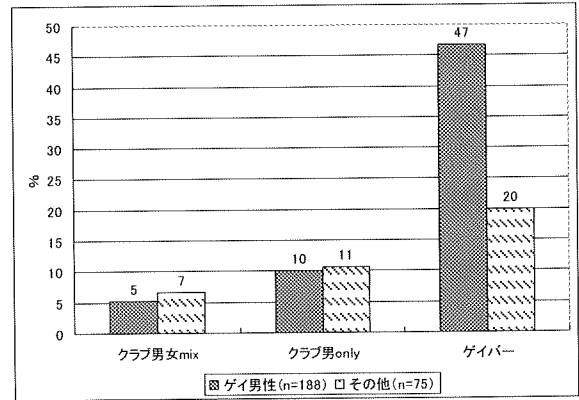


図 15 性的指向別ゲイバー等の利用経験

②過去 6 ヶ月間に利用した施設等

過去 6 ヶ月間に使用した施設としては、ビデオボックス系ハッテン場を利用している割合がその他群のほうが 20% (n=15) と、ゲイ男性群 10% (n=19) と比較して有意に高かった (p=0.031) (図 14)。他のハッテン場に関しては、両群間に有意な差は見られなかった。

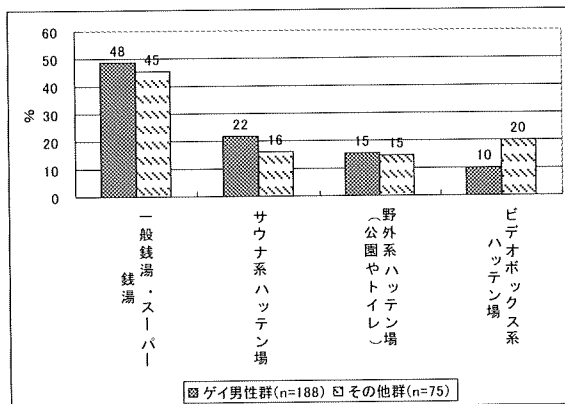


図 14 性的指向別ハッテン場利用経験

またゲイバーの利用に関しては、ゲイ男性群のほうが 47% (n=88) と、その他群 20% (n=15) と比較して有意に高かった (p<0.001) (図 15)。

携帯電話や PC などのゲイ向け出会い系サイトの利用に関して、ゲイ向け PC 出会い系サイトの利用は、その他群が 35% (n=26) と、ゲイ男性群 15% (n=29) と比較して有意に高かった (p=0.001)。また mixi の利用は、ゲイ男性群が 42% (n=78) と、その他群 23% (n=31) と比較して有意に高かった (p=0.004) (図 16)。

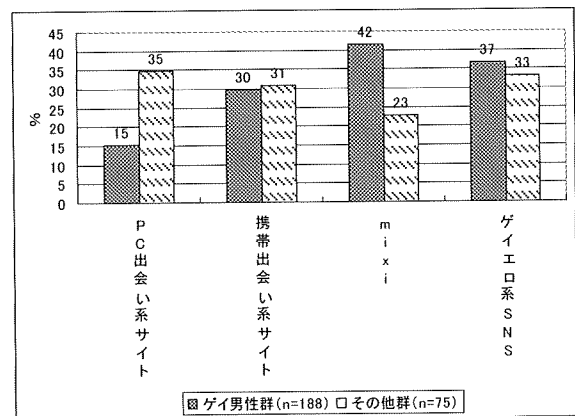


図 16 性的指向別出会い系サイト等の利用経験

③HIV/STI 感染予防行動とリスク認知

過去 6 ヶ月間の特定相手とタチ (挿入する側) のときのコンドーム使用状況について、特定相手とタチの性行為を行ったものは、ゲイ男性群で 102 人、その他群で 44 人の計 146 人であった。そのうちのコンドーム常用率はゲイ男性群で 42% (n=43) と、その他群 66% (n=29) と比較して有意に低かった (p=0.008)。

また過去 6 ヶ月間の特定相手とウケ (挿入される側) のときのコンドーム使用状況につ

いて、特定相手とウケの性行為を行ったものは、ゲイ男性群 97 人、その他群 36 人の計 133 人であった。そのうちのコンドーム常用率はゲイ男性群で 43% (n=42) と、その他群 67% (n=24)と比較して有意に低かった(p=0.017)。

過去 6 ヶ月間のその場限りの相手とタチ (挿入する側) のときのコンドーム使用状況について、その場限りの相手とタチの性行為を行ったものは、ゲイ男性群 84 人、その他群 41 人の計 125 人であった。そのうちのコンドーム常用率はゲイ男性群で 54% (n=45) と、その他群 66% (n=27)と比較して低いが有意差は見られなかった (p=0.192)。

過去 6 ヶ月間のその場限りの相手とウケ (挿入される側) のときのコンドーム使用状況について、その場限りの相手とウケの性行為を行ったものは、ゲイ男性群 88 人、その他群 41 人の計 125 人であった。そのうちのコンドーム常用率はゲイ男性群で 56% (n=49) と、その他群 79% (n=27)と比較して有意に低かった (p=0.015) (図 17)。

これらの結果から、ゲイ男性群のほうがその他群と比較してコンドームを使用しないアナルセックスを行っていることが示唆された。

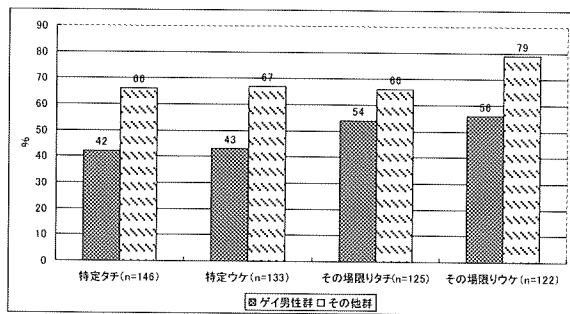


図 17 性的指向別コンドーム常用率

これまでの行動を振り返って、HIV に感染する可能性があったかに関して、ゲイ男性群では十分可能性があると感じたものの割合が 20% (n=37)であった一方、その他群では絶対ないと答えた人の割合が 20% (n=15)であった (図 18)。

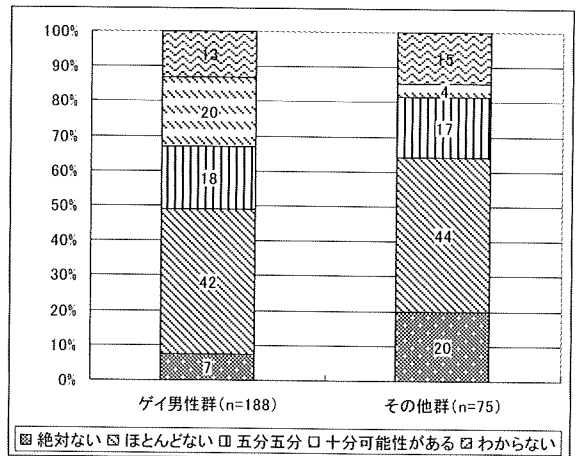


図 18 性的指向別 HIV 感染リスク認知

D. 考察

東北地域ではこれまでスポーツ大会などでのアンケート調査が実施されてきたが、本調査は携帯電話や PC を通して行われた。回答者数も 382 人と多く、本調査は東北地域のゲイ・バイセクシュアル男性の性行動や HIV 感染予防行動を知る上で重要なデータを得ることができた。

今回の調査分析対象者は東北地域在住 MSM263 人としたが、年齢では 39 歳以下が 8 割を占め、また仙台市を含む宮城県在住者が 62%であった。両性愛者 (バイセクシュアル) を自認するものが 23%おり、本研究班の他の地域と比較して高かった (cf. 2008 年大阪クラブ調査 11%、2008 年福岡バー調査 16%)。

年齢別分析においては、40 歳以上の HIV 抗体検査受検経験が他の年齢層と比較すると低くなっているが、コンドームを常用しないアナルセックスに関しては年齢別で有意差は見られなかった (特定タチ p=0.053、特定ウケ p=0.626、その場限りタチ p=0.623、その場限りウケ p=0.896)。

一方、性的指向別に見ると、コンドームを常用しないアナルセックスの割合が、「男性同性愛者 (ゲイ)」を自認するものの中で高いことが分かった。この結果は、例えば 2008 年に福岡で実施されたバー調査の結果と対照的である。福岡の場合、ゲイ男性群でのコンドー

ム常用率は有意差はないがその他群と比較して高かったが、東北地域の今回の調査ではゲイ男性群でのコンドーム常用率がその他群と比較して有意に低かった。この結果は、今後、ゲイバーやハッテン場などの商業施設を中心とした「ゲイ・コミュニティ」における予防介入が喫緊の課題であることを示している。

予防啓発活動の介入の場所として考えられるところとしては、まずゲイバーが考えられる。過去6ヶ月間に利用した施設としてゲイバーを挙げたものが約4割おり、またゲイ男性群でのゲイバー利用も高いことを考慮すると、ゲイバーでの予防啓発活動は有効であることが示唆される。また東北地域のゲイ・バイセクシュアル男性は、出会いの場として一般銭湯を挙げている人の割合が高かった。一般銭湯での予防啓発は難しいかもしれないが、何らかの有効な手段を考案することで効果的な啓発が展開できる可能性がある。また、PCや携帯電話の出会い系サイトの他に、mixiやゲイ向けSNSを利用している人の割合も高かった。東北在住のゲイ・バイセクシュアル男性は、比較的これらのインターネットを媒介とした出会いを利用していることから、これらの媒体も有効に利用できるであろう。とりわけゲイ男性群では、mixiの利用がその他群と比較して有意に高かった。mixi内のコミュニティを利用することも予防啓発の手段として考えられる。

今年度の終わりに、東北地域ではHIV/AIDS予防啓発の拠点としてのコミュニティセンターZELがオープンすることとなり、仙台市を中心とした「ゲイ・コミュニティ」をベースとした予防啓発活動が展開していくことにより、ゲイ・バイセクシュアル男性に対するHIV/AIDSをめぐる情報提供やHIV抗体検査受検環境が整備されることが期待されている。今回の調査結果からも、「ゲイ・コミュニティ」による予防啓発が展開されることによって、東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性

におけるHIV感染リスクの高い性行動が回避されていく可能性がある。今後さらに詳細な調査を行い、その結果がやろっこの活動によりよい形で還元されていく必要がある。

E. 発表論文等

なし

付表1 基礎集計

	n=263	%
居住地		
仙台市内	98	(37.3)
宮城県	63	(24.0)
山形県	23	(8.7)
福島県	27	(10.3)
岩手県	27	(10.3)
青森県	11	(4.2)
秋田県	14	(5.3)
年齢		
10代	12	(4.6)
20代	92	(35.0)
30代	111	(42.2)
40代	37	(14.1)
50代	8	(3.0)
60代以上	3	(1.1)
職業		
学生	32	(12.2)
アルバイト／パートタイム	18	(6.8)
常勤(正規雇用)	145	(55.1)
常勤(契約など非正規雇用)	28	(10.6)
無職	9	(3.4)
その他	31	(11.8)
性的指向		
男性同性愛者(ゲイ)	188	(71.5)
両性愛者(バイセクシュアル)	61	(23.2)
異性愛者(ヘテロセクシュアル)	2	(0.8)
その他	2	(0.8)
わからない	5	(1.9)
決めたくない	5	(1.9)
過去6ヶ月間の利用施設等		
サウナ系ハッテン場に行った	53	(20.2)
ビデオボックス系ハッテン場に行った	34	(12.9)
野外系ハッテン場(公園やトイレ)に行った	40	(15.2)
一般銭湯・スーパー銭湯に行った	125	(47.5)
クラブ(男女mix)に行った	15	(5.7)
クラブ(男only)に行った	27	(10.3)
東京新木場のagehalに行った	1	(0.4)
ゲイバーに行った	103	(39.2)
お金をもらって男性とセックスした	7	(2.7)
お金を払って男性とセックスした	6	(2.3)
インターネットで知り合った男性とセックスした	55	(20.9)
携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスした	79	(30)
mixiを利用した	95	(36.1)
ゲイのエロ系SNSを利用した	94	(35.7)
いずれもあてはまらない	26	(9.9)
HIV検査		
6ヶ月以内に受けた	51	(19.4)
1年以内に受けた	22	(8.4)
1年よりもっと前に受けた	59	(22.4)
受けたことがない	131	(49.8)

	n=263	%
HIV検査受検場所		
HIV検査を受けたことがない	119	(45.2)
保健所	67	(25.5)
病院・医院	37	(14.1)
国分町夜間検査	6	(2.3)
青葉区役所土曜検査	7	(2.7)
郡山駅前土曜検査	1	(0.4)
夜間検査	4	(1.5)
土曜検査	2	(0.8)
休日検査	2	(0.8)
HIV検査イベント・臨時検査会	6	(2.3)
自宅検査キット	5	(1.9)
その他	7	(2.7)
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用		
常用	100	(50.0)
非常用	100	(50.0)
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用		
常用	87	(47.5)
非常用	96	(52.5)
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用		
常用	100	(56.8)
非常用	76	(43.2)
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用		
常用	99	(60.7)
非常用	64	(39.3)
これまでの行動を振り返って、あなたがHIVに感染する可能性はどれくらいあったと思いますか？		
絶対ない	29	(11.0)
ほとんどない	111	(42.2)
五分五分	47	(17.9)
十分可能性がある	40	(15.2)
わからない	36	(13.7)

付表2 年齢別分析

	29歳以下 n=104	30-39歳 n=111	40歳以上 n=48	合計 n=263	χ^2 検定 P値
居住地					
仙台市内	46 (44.2)	39 (35.1)	13 (27.1)	98 (37.3)	0.013
宮城県	25 (24.0)	28 (25.2)	10 (20.8)	63 (24.0)	
山形県	11 (10.6)	10 (9.0)	2 (4.2)	23 (8.7)	
福島県	4 (3.8)	12 (10.8)	11 (22.9)	27 (10.3)	
岩手県	12 (11.5)	7 (6.3)	8 (16.7)	27 (10.3)	
青森県	1 (1.0)	8 (7.2)	2 (4.2)	11 (4.2)	
秋田県	5 (4.8)	7 (6.3)	2 (4.2)	14 (5.3)	
職業					
学生	31 (29.8)	1 (0.9)	0 (0.0)	32 (12.2)	0.000
アルバイト/パートタイム	14 (13.5)	4 (3.6)	0 (0.0)	18 (6.8)	
常勤(正規雇用)	39 (37.5)	72 (64.9)	34 (70.8)	145 (55.1)	
常勤(契約など非正規雇用)	11 (10.6)	13 (11.7)	4 (8.3)	28 (10.6)	
無職	5 (4.8)	3 (2.7)	1 (2.1)	9 (3.4)	
その他	4 (3.8)	18 (16.2)	9 (18.8)	31 (11.8)	
性的指向					
男性同性愛者(ゲイ)	72 (69.2)	80 (72.1)	36 (75.0)	188 (71.5)	0.226
両性愛者(バイセクシュアル)	26 (25.0)	23 (20.7)	12 (25.0)	61 (23.2)	
異性愛者(ヘテロセクシュアル)	2 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	
その他	2 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	
わからない	1 (1.0)	4 (3.6)	0 (0.0)	5 (1.9)	
決めたくない	1 (1.0)	4 (3.6)	0 (0.0)	5 (1.9)	
過去6ヶ月間の利用施設等					
サウナ系ハッテン場に行った	13 (12.5)	26 (23.4)	14 (29.2)	53 (20.2)	0.031
ビデオボックス系ハッテン場に行った	10 (9.6)	18 (16.2)	6 (12.5)	34 (12.9)	0.352
野外系ハッテン場(公園やトイレ)に行った	9 (8.7)	20 (18.0)	11 (22.9)	40 (15.2)	0.042
一般銭湯・スーパー銭湯に行った	41 (39.4)	58 (52.3)	26 (54.2)	125 (47.5)	0.101
クラブ(男女mix)に行った	6 (5.8)	9 (8.1)	0 (0.0)	15 (5.7)	0.129
クラブ(男only)に行った	9 (8.7)	15 (13.5)	3 (6.3)	27 (10.3)	0.301
東京新木場のagehalに行った	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.4)	0.503
ゲイバーに行った	37 (35.6)	46 (41.4)	20 (41.7)	103 (39.2)	0.628
お金をもらって男性とセックスした	5 (4.8)	2 (1.8)	0 (0.0)	7 (2.7)	0.176
お金を払って男性とセックスした	0 (0.0)	3 (2.7)	3 (6.3)	6 (2.3)	0.052
インターネットで知り合った男性とセックスした	20 (19.2)	25 (22.5)	10 (20.8)	55 (20.9)	0.839
携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスした	26 (25.0)	39 (35.1)	14 (29.2)	79 (30.0)	0.266
mixiを利用した	43 (41.3)	40 (36.0)	12 (25.0)	95 (36.1)	0.149
ゲイのエロ系SNSを利用した	36 (34.6)	45 (40.5)	13 (27.1)	94 (35.7)	0.254
いずれもあてはまらない	11 (10.6)	12 (10.8)	3 (6.3)	26 (9.9)	0.646
HIV検査					
6ヶ月以内に受けた	22 (21.2)	25 (22.5)	4 (8.3)	51 (19.4)	0.144
1年以内に受けた	7 (6.7)	12 (10.8)	3 (6.3)	22 (8.4)	
1年よりもっと前に受けた	21 (20.2)	28 (25.2)	10 (20.8)	59 (22.4)	
受けたことがない	54 (51.9)	46 (41.4)	31 (64.6)	131 (49.8)	
HIV検査受検場所					
HIV検査を受けたことがない	47 (45.2)	42 (37.8)	30 (62.5)	119 (45.2)	0.016
保健所	27 (26.0)	35 (31.5)	5 (10.4)	67 (25.5)	0.019
病院・医院	13 (12.5)	14 (12.6)	10 (20.8)	37 (14.1)	0.468
国分町夜間検査	2 (1.9)	4 (3.6)	0 (0.0)	6 (2.3)	0.466
青葉区役所土曜検査	4 (3.8)	3 (2.7)	0 (0.0)	7 (2.7)	0.391
郡山駅前土曜検査	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.4)	0.503
夜間検査	1 (1.0)	3 (2.7)	0 (0.0)	4 (1.5)	0.369
土曜検査	1 (1.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	2 (0.8)	0.797
休日検査	2 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	0.350
HIV検査イベント・臨時検査会	3 (2.9)	2 (1.8)	1 (2.1)	6 (2.3)	0.864
自宅検査キット	2 (1.9)	2 (1.8)	1 (2.1)	5 (1.9)	0.818
その他	1 (1.0)	4 (3.6)	2 (4.2)	7 (2.7)	0.451

	29歳以下 n=104	30-39歳 n=111	40歳以上 n=48	合計 n=263	χ^2 検定 P値
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用					
常用	32 (60.4)	25 (38.5)	15 (53.6)	72 (49.3)	0.053
非常用	21 (39.6)	40 (61.5)	13 (46.4)	74 (50.7)	
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用					
常用	34 (54.0)	25 (46.3)	7 (43.8)	66 (49.6)	0.626
非常用	29 (46.0)	29 (53.7)	9 (56.3)	67 (50.4)	
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用					
常用	21 (52.5)	36 (62.1)	15 (55.6)	72 (57.6)	0.623
非常用	19 (47.5)	22 (37.9)	12 (44.4)	53 (42.4)	
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用					
常用	32 (64.0)	33 (62.3)	11 (57.9)	76 (62.3)	0.896
非常用	18 (36.0)	20 (37.0)	8 (42.1)	46 (37.7)	
これまでの行動を振り返って、あなたがHIVに感染する可能性はどれくらいあったと思いますか？					
絶対ない	15 (14.4)	11 (9.9)	3 (6.3)	29 (11.0)	0.734
ほとんどない	43 (41.3)	48 (43.2)	20 (41.7)	111 (42.2)	
五分五分	20 (19.2)	19 (17.1)	8 (16.7)	47 (17.9)	
十分可能性がある	12 (11.5)	20 (18.0)	8 (16.7)	40 (15.2)	
わからない	14 (13.5)	13 (11.7)	9 (18.8)	36 (13.7)	

付表3 性的指向別分析

	ゲイ男性群 n=188	その他群 n=75	合計 n=263	χ ² 検定 P値
居住地				
仙台市内	70 (37.2)	28 (37.3)	98 (37.3)	0.609
宮城県	47 (25.0)	16 (21.3)	63 (24.0)	
山形県	13 (6.9)	10 (13.3)	23 (8.7)	
福島県	22 (11.7)	5 (6.7)	27 (10.3)	
岩手県	19 (10.1)	8 (10.7)	27 (10.3)	
青森県	7 (3.7)	4 (5.3)	11 (4.2)	
秋田県	10 (5.3)	4 (5.3)	14 (5.3)	
年齢				
10代	9 (4.8)	3 (4.0)	12 (4.6)	0.887
20代	63 (33.5)	29 (38.7)	92 (35.0)	
30代	80 (42.6)	31 (41.3)	111 (42.2)	
40代	29 (15.4)	8 (10.7)	37 (14.1)	
50代	5 (2.7)	3 (4.0)	8 (3.0)	
60代以上	2 (1.1)	1 (1.3)	3 (1.1)	
職業				
学生	20 (10.6)	12 (16.0)	32 (12.2)	0.668
アルバイト/パートタイム	13 (6.9)	5 (6.7)	18 (6.8)	
常勤(正規雇用)	105 (55.9)	40 (53.3)	145 (55.1)	
常勤(契約など非正規雇用)	23 (12.2)	5 (6.7)	28 (10.6)	
無職	6 (3.2)	3 (4.0)	9 (3.4)	
その他	21 (11.2)	10 (13.3)	31 (11.8)	
性的指向				
男性同性愛者(ゲイ)	188 (100.0)	0 (0.0)	188 (71.5)	0.000
両性愛者(バイセクシュアル)	0 (0.0)	61 (81.3)	61 (23.2)	
異性愛者(ヘテロセクシュアル)	0 (0.0)	2 (2.7)	2 (0.8)	
その他	0 (0.0)	2 (2.7)	2 (0.8)	
わからない	0 (0.0)	5 (6.7)	5 (1.9)	
決めたくない	0 (0.0)	5 (6.7)	5 (1.9)	
過去6ヶ月間の利用施設等				
サウナ系ハッテン場に行った	41 (21.8)	12 (16.0)	53 (20.2)	0.289
ビデオボックス系ハッテン場に行った	19 (10.1)	15 (20.0)	34 (12.9)	0.031
野外系ハッテン場(公園やトイレ)に行った	29 (15.4)	11 (14.7)	40 (15.2)	0.877
一般銭湯・スーパー銭湯に行った	91 (48.4)	34 (45.3)	125 (47.5)	0.653
クラブ(男女mix)に行った	10 (5.3)	5 (6.7)	15 (5.7)	0.671
クラブ(男only)に行った	19 (10.1)	8 (10.7)	27 (10.3)	0.892
東京新木場のagehalに行った	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.4)	0.527
ゲイバーに行った	88 (46.8)	15 (20.0)	103 (39.2)	0.000
お金をもらって男性とセックスした	5 (2.7)	2 (2.7)	7 (2.7)	0.997
お金を払って男性とセックスした	2 (1.1)	4 (5.3)	6 (2.3)	0.036
インターネットで知り合った男性とセックスした	29 (15.4)	26 (34.7)	55 (20.9)	0.001
携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスした	56 (29.8)	23 (30.7)	79 (30.0)	0.888
mixiを利用した	78 (41.5)	17 (22.7)	95 (36.1)	0.004
ゲイのエロ系SNSを利用した	69 (36.7)	25 (33.3)	94 (35.7)	0.607
いずれもあてはまらない	19 (10.1)	7 (9.3)	26 (9.9)	0.850
HIV検査				
6ヶ月以内に受けた	37 (19.7)	14 (18.7)	51 (19.4)	0.011
1年以内に受けた	20 (10.6)	2 (2.7)	22 (8.4)	
1年よりもっと前に受けた	48 (25.5)	11 (14.7)	59 (22.4)	
受けたことがない	83 (44.1)	48 (64.0)	131 (49.8)	
HIV検査受検場所				
HIV検査を受けたことがない	78 (41.5)	41 (54.7)	119 (45.2)	0.053
保健所	51 (27.1)	16 (21.3)	67 (25.5)	0.330
病院・医院	29 (15.4)	8 (10.7)	37 (14.1)	0.179
国分町夜間検査	6 (3.2)	0 (0.0)	6 (2.3)	0.085
青葉区役所土曜検査	7 (3.7)	0 (0.0)	7 (2.7)	0.090
郡山駅前土曜検査	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.4)	0.527
夜間検査	4 (2.1)	0 (0.0)	4 (1.5)	0.203
土曜検査	2 (1.1)	0 (0.0)	2 (0.8)	0.370
休日検査	1 (0.5)	1 (1.3)	2 (0.8)	0.225
HIV検査イベント・臨時検査会	5 (2.7)	1 (1.3)	6 (2.3)	0.515
自宅検査キット	3 (1.6)	2 (2.7)	5 (1.9)	0.696
その他	6 (3.2)	1 (1.3)	7 (2.7)	0.284
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用				
常用	43 (42.2)	29 (65.9)	72 (49.3)	0.008
非常用	59 (57.8)	15 (34.1)	74 (50.7)	
過去6ヶ月間に特定の相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用				
常用	42 (43.3)	24 (66.7)	66 (49.6)	0.017
非常用	55 (56.7)	12 (33.3)	67 (50.4)	
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入する際のコンドーム使用				
常用	45 (53.6)	27 (65.9)	72 (57.6)	0.192
非常用	39 (46.4)	14 (34.1)	53 (42.4)	
過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックスで挿入される際のコンドーム使用				
常用	49 (55.7)	27 (79.4)	76 (62.3)	0.015
非常用	39 (44.3)	7 (20.6)	46 (37.7)	
これまでの行動を振り返って、あなたがHIVに感染する可能性はどれくらいあったと思いますか？				
絶対ない	14 (7.4)	15 (20.0)	29 (11.0)	0.002
ほとんどない	78 (41.5)	33 (44.0)	111 (42.2)	
五分五分	34 (18.1)	13 (17.3)	47 (17.9)	
十分可能性がある	37 (19.7)	3 (4.0)	40 (15.2)	
わからない	25 (13.3)	11 (14.7)	36 (13.7)	

東北地域における RDS 法を用いた携帯電話調査

研究協力者：新ヶ江章友（名古屋市立大学看護学部／財団法人エイズ予防財団）、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）、太田貴、小浜耕治、庄子一昭、内海章友（やろっこ）、伊藤俊広（国立病院機構仙台医療センター）

研究要旨

本調査の目的は、RDS（Respondent Driven Sampling）法を用いた携帯電話による調査システムを用いて、東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性の人的ネットワークを通して、HIV 予防啓発活動の浸透度、HIV 感染予防行動を継続的にモニタリングし、活動の評価資料を得ることにある。今年度の調査では、仙台市で開催されたゲイ・バイセクシュアル男性が集まるバレーボール大会参加者を通じたネットワークと、HIV 予防啓発を行っている NGO やろっこの知人や友人を通じたネットワークの二つを調査し、両群を比較分析した。バレーボール大会参加者のネットワーク（以下、バレーボール大会群とする）では 42 人、やろっこの知人・友人のネットワーク（以下、やろっこ群とする）では 80 人、計 122 人からの参加協力を得た。

両群間の比較において、バレーボール大会群では、アナルセックス時の特定／その場限りの相手とタチ（挿入する側）／ウケ（挿入される側）の行為において、コンドーム常用率がやろっこ群と比較して有意に低かった。やろっこ群では、予防啓発資材やイベントへの参加率も高く、コンドーム非常用のアナルセックスの割合もバレーボール大会群と比較して低かった。過去 6 ヶ月間に使用した施設等に関しては両群間で大きな差は見られなかったため、ゲイバー、mixi などのインターネット、野外系ハッテン場などを通じた予防啓発は効果的である可能性があるが、バレーボール大会群に対しては、大会開催時に様々な予防啓発資材やメッセージ等の提供も必要であることが示唆された。

A. 研究目的

本調査では、東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性の人的ネットワークを把握するために RDS 法を用いた携帯電話調査を実施することで、調査対象集団の HIV 感染リスク行動や啓発資材への曝露状況を理解することで、東北地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたよりよい予防啓発プログラムを開発する資料を NGO へと還元していくことにある。

B. 研究目的

1) アンケートシステムの概要

RDS 法を用いた携帯電話による質問項目の作成や調査の実施は、NGO 団体やろっこの協働で行われた。本調査システムは携帯電話からのみアクセスが可能であり、携帯電話に付属の電子メール機能を用いて対象者を紹介するシステムとなっている。

2) 対象者リクルート方法

対象者のリクルートは 2 つの異なった日時と場所で行われた。

①バレーボール大会でのリクルート

一つ目の調査は、仙台市で開催されたゲイ・バイセクシュアル男性によるゲイバー対抗バ

レーボール大会で行われた。大会は2009（平成21）年11月21日（土）の9時から16時まで、仙台市内の体育館を使用して実施された。バレーボール大会の参加者は、観客と選手をあわせると約200人であった。

大会開会式の際にアンケートの実施要領や方法が記入されたカードを参加者に手渡し、回答協力を依頼した。このカードを大会開会式で受け取った層を、第1層とした。回答の有無に関わらず飲み物も一緒に手渡した。アンケート回答者には、メールで送信可能なギフト券を提供し、第1層のアンケート回答者のうち友人にアンケートを紹介してくれたものに対し、抽選でパンツがあたるという方法も採用した。

第1層のものがアンケートに回答し終わると、自分のゲイ・バイセクシュアル男性の友人3人までにアンケートを送信することで、友人を紹介してもらう。この層を第2層とした。このように、第2層のものも自分の友人にアンケートを送信するというシステムを採用することで、第3層、第4層と層が拡大していく。

②やろっこメンバーからの直接のリクルート

二つ目の調査は、やろっこのメンバーが直接友人に調査カードを手渡ししたり、メールで依頼したり、mixiのやろっこコミュニティに所属しているメンバーにメールで依頼したりして周知させた。アンケートの実施は、2010（平成22）年1月25日から2月19日までとした。

配布カードはバレーボール大会のときに配布したものと同様のもので、アンケートの質問項目も同様のものである。

第1層は、やろっこのメンバーから直接配布カードを受け取ったもので、直接の手渡しによるもの、メールによるもの、mixiのやろっこコミュニティに所属しているメンバーへのメールによるものである。第1層のものがアンケートに回答し終わると、自分のゲイ・

バイセクシュアル男性の友人3人までにアンケートを送信することで、友人を紹介してもらう。この層を第2層とした。このように、第2層のものも自分の友人にアンケートを送信するというシステムを採用することで、第3層、第4層と層が拡大していく。

3) 調査項目

質問項目は、年齢、居住地、性的指向などの基礎属性のほか、性行動、HIV感染予防行動、やろっこが提供している予防資材の認知など、計22問とした。

データの集計および統計処理には、SPSS11.5J (Windows) を用いた。分析でクロス集計を行う際にはカイ二乗検定を用い、有意水準は5%を採用した。

なお、本研究実施計画については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より、実施の承諾を得た（ID番号：08010）。

C. 研究結果

1) 基礎分析

①バレーボール大会参加者ネットワーク

バレーボール大会での調査参加者は全部で42人であった。そのうち第1層は33人、第2層は7人、第3層は2人であった。紹介は第3層までのびた。

年齢は39歳以下のものが8割弱であり、居住地は仙台市を含む宮城県が6割であった。生涯のHIV抗体検査受検経験ありのものの割合は50%（n=21）で、過去1年間の受験経験ありの割合は29%（n=12）であった。やろっこの配布しているコンドームを持ち帰ったことがあるものの割合は62%（n=26）で、やろっこの配布している予防啓発のポストカードを持ち帰ったことがあるものの割合は36%（n=15）であった。

②やろっこメンバーからの直接のリクルートによるネットワーク

やろっこメンバーからの配布カードの直接手渡しやメールなどによるリクルートでの参

加者は、全部で80人であった。そのうち第1層は57人、第2層は19人、第3層は3人、第4層は1人であった。紹介は第4層までのびた。生涯のHIV抗体検査受検経験ありのもの割合は56% (n=46) で、過去1年間の受検経験ありの割合は24% (n=19) であった。やろっこの配布しているコンドームを持ち帰ったことがあるものの割合は53% (n=42) で、やろっこの配布している予防啓発のポストカードを持ち帰ったことがあるものの割合は43% (n=34) であった。

2) バレーボール大会参加者ネットワークとやろっこメンバーからのネットワークの比較

①基礎属性

本分析では、調査対象者を東北地域在住MSMに限定した。バレーボール大会参加者からのネットワーク(以下、バレーボール大会群とする)を経て得られた回答者数は40人で、やろっこメンバーからのネットワーク(以下、やろっこ群とする)を経て得られた回答者数は79人であった。ここからは、両群の比較による分析を行う。

居住地としては、バレーボール大会群では青森県居住者が18% (n=7) であり、やろっこ群では山形県居住者が13% (n=10) であった。調査対象者の居住地に有意な差が見られた (p=0.044) (図1)。

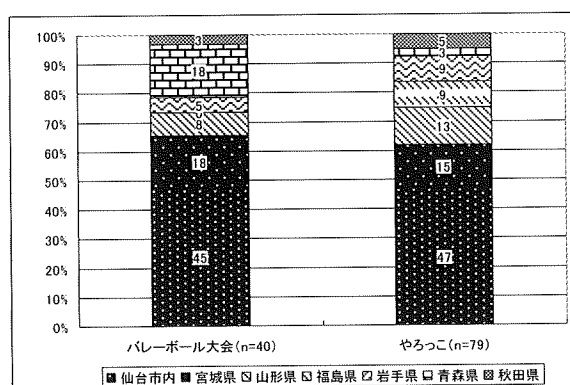


図1 居住地

年齢は、バレーボール大会群では39歳以下が80% (n=32) であり、やろっこ群では40歳以上が38% (n=30) であったが、両群間に有意差は見られなかった (p=0.118) (図2)。

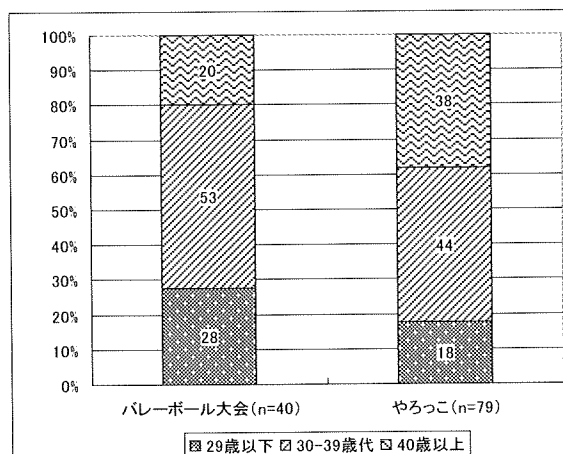


図2 年齢

性的指向は、バレーボール大会群ではバイセクシュアルの割合が20% (n=8)、その他・分からない・決めたくないが5% (n=2) で、両者を合わせると25%であった。やろっこ群との比較においては、有意差は見られなかった (p=0.235) (図3)。

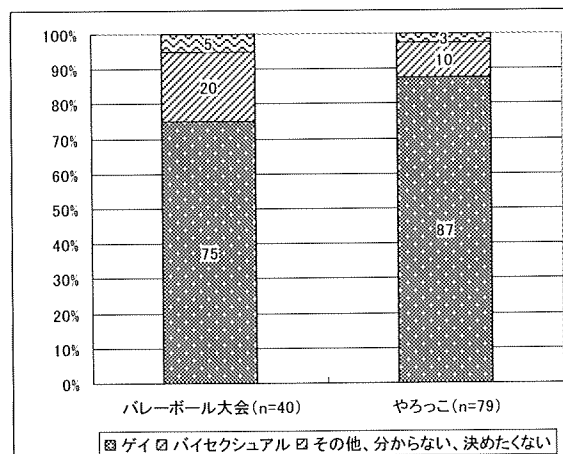


図3 性的指向

②過去6ヶ月に利用した施設等

過去6ヶ月間に利用した施設などとしては、バレーボール大会群とやろっこ群の両群においてゲイバーの利用が高く、インターネットとしてはmixiの利用も高い。ハッテン場としては、一般銭湯の利用が高かった。野外系ハ

ッテン場においては、やろっこ群が有意に高かった ($p=0.038$) (図4)。

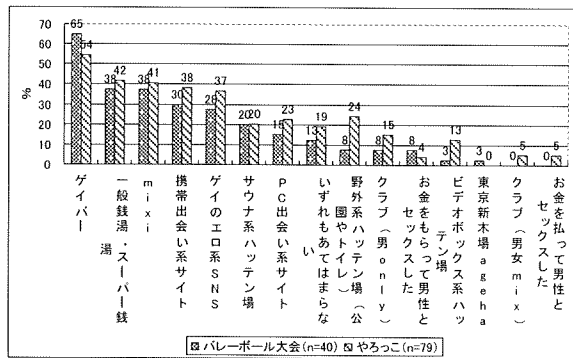


図4 過去6ヶ月間に利用した施設等

過去6ヶ月間に、東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性の知り合いで実際に会った人の数は、やろっこ群では1-9人以下の割合が42% (n=33) であり、バレーボール群21% (n=8) と比較すると高いが、有意差は見られなかった ($p=0.107$) (図5)。

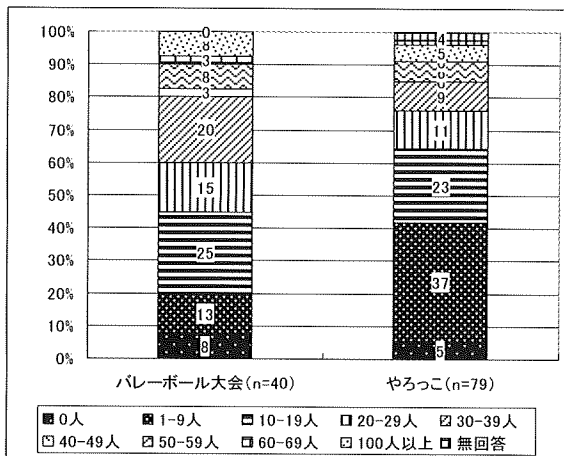


図5 過去6ヶ月間にゲイ・バイセクシュアル男性の知人と出会った人数

③ 予防啓発活動の認知

東北地域で HIV/AIDS の予防啓発活動を行っているやろっこの認知については、知っていると答えたものの割合は、バレーボール大会群では75% (n=30)、やろっこ群では81% (n=64) で、両群間に有意差は見られなかった。

やろっこが予防啓発として実施しているイベントやプログラムの認知に関して (知って

いると答えたものの割合) は、バレーボール大会群では東北バー対抗バレー大会以外の認知は30%前後以下でやろっこ群と比較すると低い。とりわけ、Love Beach Project (仙台のゲイビーチでの清掃活動) に関しては、やろっこ群が有意に高かった ($p=0.029$) (図6)。

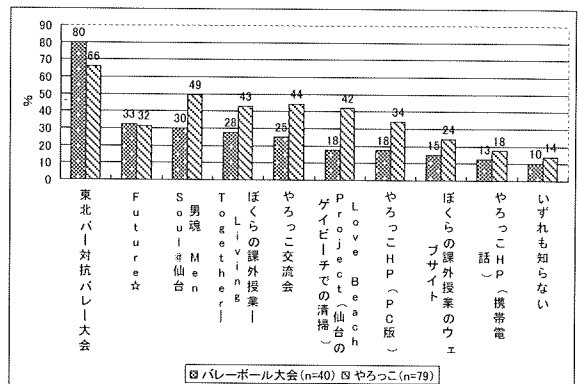


図6 やろっこによる予防啓発のイベントやプログラムの認知

やろっこが配布しているコンドーム (図7) を持ち帰ったことがあるかと、予防啓発用ポストカード (図8) を持ち帰ったことがあるかに関しては、コンドームはバレーボール大会群が65% (n=26) とやろっこ群と比較すると高く、ポストカードはやろっこ群が42% (n=33) と高かったが、両群間で有意差は見られなかった (コンドーム $p=0.173$ 、ポストカード $p=0.654$) (図9)。

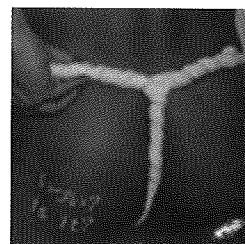


図7 やろっこが配布しているコンドームのパッケージ

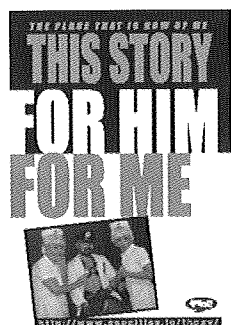


図 8 やろっこが配布している予防啓発のポスターカード

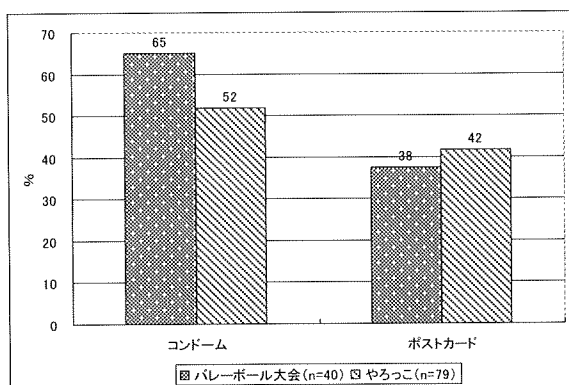


図 9 やろっこが配布するコンドームと啓発用ポストカードの持ち帰り

HIV 陽性者の身近さ感については、やろっこ群でいると答えたものの割合が 35% (n=28) で、バレーボール大会群と比較して高かったが、有意差は見られなかった (p=0.413) (図 10)。

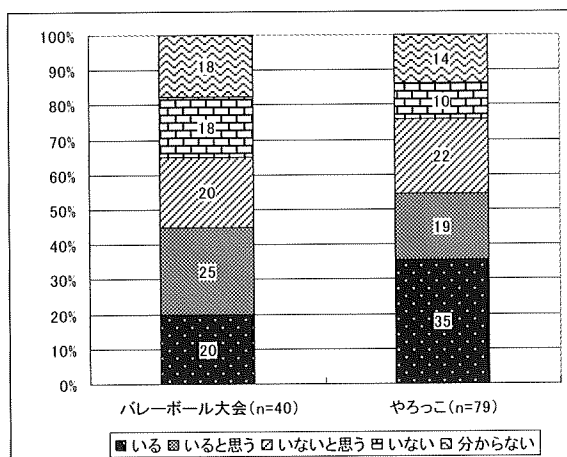


図 10 HIV 陽性者の身近さ感

④HIV 抗体検査受検行動

これまでに HIV 抗体検査を受検したことがあると答えたものの割合は、バレーボール大会群は 53% (n=21)、やろっこ群は 57% (n=45) で、両群間に有意差は見られなかった (p=0.132) (図 11)。

また、過去 1 年間に HIV 抗体検査を受検したことがあると答えたものの割合は、バレーボール大会群では 30% (n=12)、やろっこ群では 23% (n=18) で、両群間に有意差は見られなかった (p=0.574) (図 11)。やろっこ群では、1 年以上前に HIV 抗体陽性を確認していると答えたものは 5 人いた。

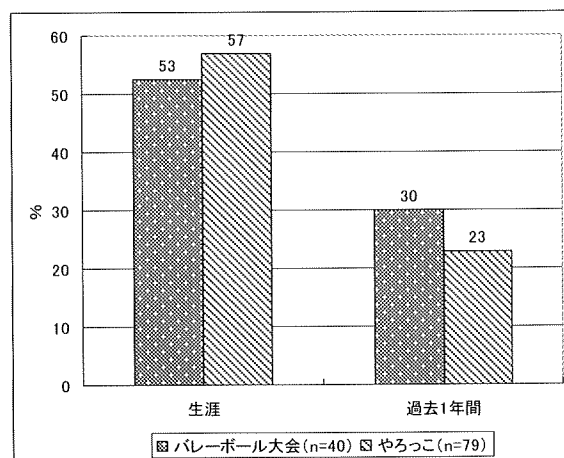


図 11 HIV 抗体検査受検経験

これまでに HIV 抗体検査を受検したことがあると答えた 66 人のうち、最後に HIV 抗体検査を受検した場所としては、保健所が最も高く 52% (n=35) で、病院・医院が 27% (n=18) であった (図 12)。

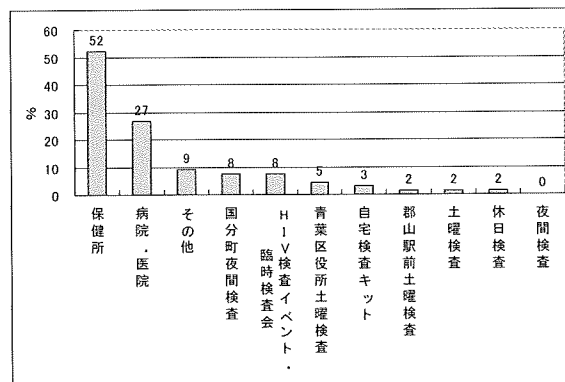


図 12 最後に HIV 抗体検査を受検した場所

⑤HIV/STI 感染予防行動とリスク認知

過去6ヶ月間の特定相手とタチ（挿入する側）のときのコンドーム使用状況について、バレーボール大会群のうち、特定相手とタチの性行為を行ったものは24人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率（コンドームを必ず使ったと答えた人の割合）は12.5%（n=3）であった。また、やろっこ群のうち、特定相手とタチの性行為を行ったものは48人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は50%（n=24）であった。コンドーム常用率に関しては、バレーボール大会群のほうが有意に低かった（ $p=0.002$ ）（図13）。

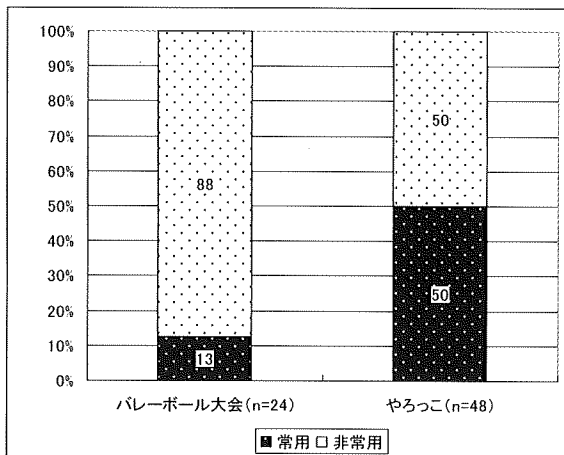


図13 特定相手とタチのときのコンドーム常用率

過去6ヶ月間の特定相手とウケ（挿入される側）のときのコンドーム使用状況について、バレーボール大会群のうち、特定相手とウケの性行為を行ったものは19人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は31.6%（n=6）であった。また、やろっこ群のうち、特定相手とウケの性行為を行ったものは36人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は61%（n=22）であった。コンドーム常用率に関しては、バレーボール大会群のほうが有意に低かった（ $p=0.037$ ）（図14）。

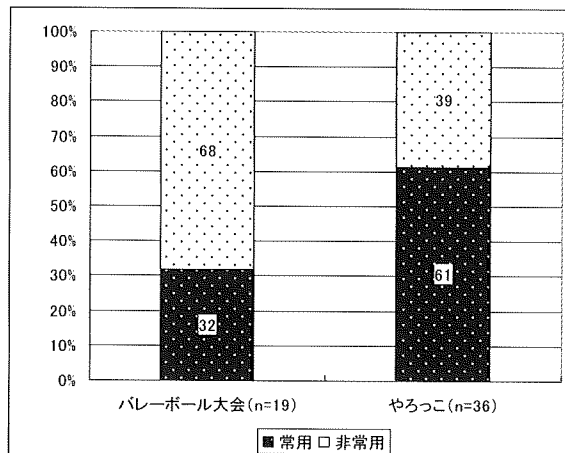


図14 特定相手とウケのときのコンドーム常用率

過去6ヶ月間のその場限りの相手とタチ（挿入する側）のときのコンドーム使用状況について、バレーボール大会群のうち、その場限りの相手とタチの性行為を行ったものは12人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率（コンドームを必ず使ったと答えた人の割合）は41.7%（n=5）であった。また、やろっこ群のうち、特定相手とタチの性行為を行ったものは33人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は85%（n=28）であった。コンドーム常用率に関しては、バレーボール大会群のほうが有意に低かった（ $p=0.004$ ）（図15）。

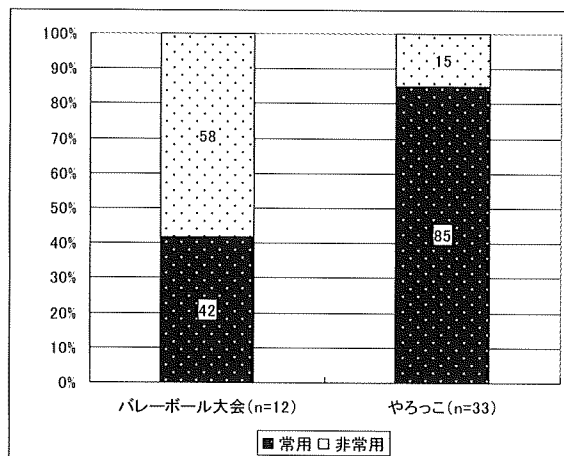


図15 その場限りの相手とタチのときのコンドーム常用率

過去 6 ヶ月間のその場限りの相手とウケ (挿入される側) のときのコンドーム使用状況について、バレーボール大会群のうち、その場限りの相手とウケの性行為を行ったものは 12 人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は 33% (n=4) であった。また、やろっこ群のうち、特定相手とウケの性行為を行ったものは 25 人で、そのうちアナルセックスの際のコンドーム常用率は 84% (n=21) であった。コンドーム常用率に関しては、バレーボール大会群のほうが有意に低かった (p=0.002) (図 16)。

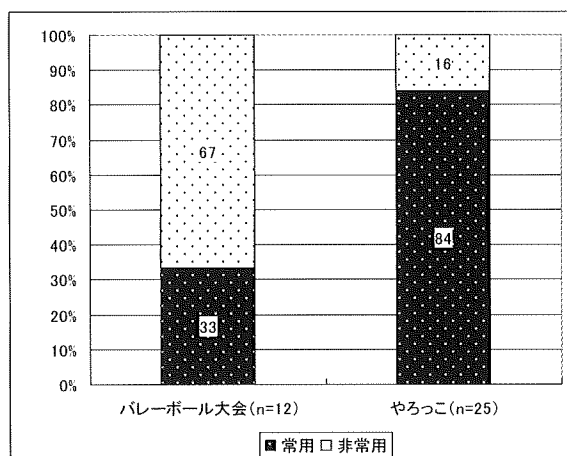


図 16 その場限りの相手とウケのときのコンドーム常用率

これまでの行動を振り返って HIV に感染する可能性があったかに関して、バレーボール大会群は全くなかったと答えたものの割合が 35% (n=14) と、やろっこ群と比較して高かったが、有意差は見られなかった (p=0.395) (図 17)。バレーボール大会群は、アナルセックス時のコンドーム常用率が低いですが、HIV 感染リスク認知に関しては感染の可能性が高いと考えているものの割合が低いことが示唆された。

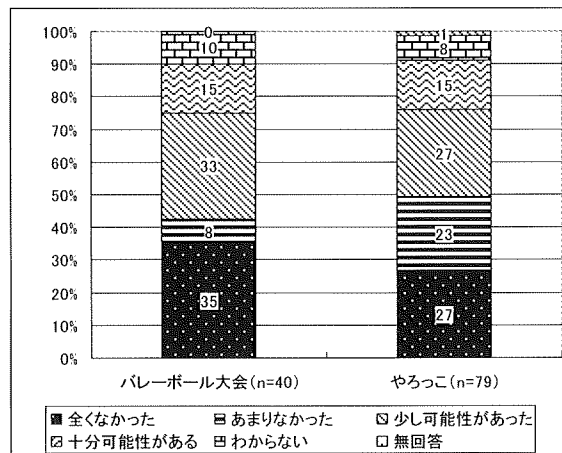


図 17 これまでの行動を振り返って HIV に感染する可能性があったか

今後、「彼氏、恋人、セフレなどの特定相手」とのアナルセックスの際に、コンドームを使用したかに関して、毎回使いたいと答えたものの割合はやろっこ群で 48% (n=38) と、バレーボール大会群と比較して高かった。バレーボール大会群では、考えていないと答えたものの割合が 28% (n=11) と高かったが、両群間で有意差は見られなかった (p=0.090) (図 18)。

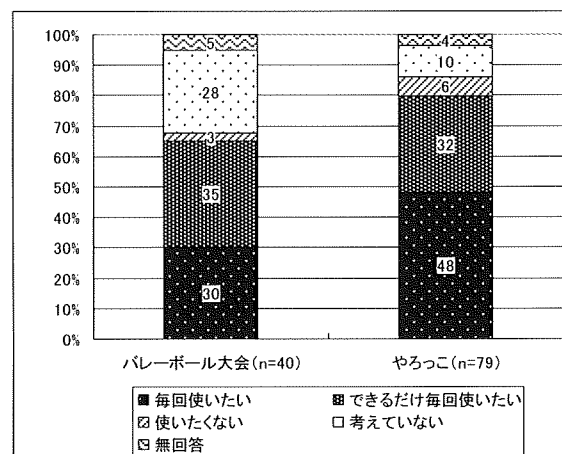


図 18 今後特定相手とコンドームを毎回使用したいか

今後、「その場限りの相手」とのアナルセックスの際に、コンドームを使用したかに関して、毎回使いたいと答えたものの割合はやろっこ群で 80% (n=63) と、バレーボール大会群と比較して高かった。バレーボール大会

群では、考えていないと答えたものの割合が15% (n=6) と高く、両群間で有意差が見られた (p=0.014) (図 19)。

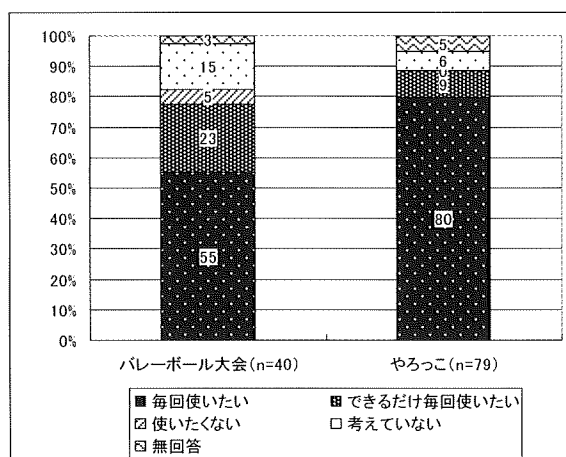


図 19 今後その場限りの相手とコンドームを毎回使用したいか

D. 考察

今回の調査では、バレーボール大会群とやろっこ群をあわせると122人の参加があった。バレーボール大会群の参加が42人と少なかったため、今後さらに協力を依頼する際に工夫が必要であるが、両群間の比較分析が可能となった。その結果、バレーボール大会群とやろっこ群ではいくつかの差異が見られた。

両群間の比較において、バレーボール大会群では、アナルセックス時の特定/その場限りの相手とタチ (挿入する側) /ウケ (挿入される側) の行為において、コンドーム常用率がやろっこ群と比較して有意に低かった (特定タチ p=0.002、特定ウケ p=0.037、その場限りタチ p=0.004、その場限りウケ p=0.002)。たしかにやろっこ群は、東北地域でのHIV予防啓発を行っているメンバーからのネットワークであるため、予防に対する意識が高かったことが考えられる。しかし、バレーボール大会群では、やろっこの配布しているコンドームの認知が高く、仮にコンドームが身近にある環境にありながら常用しない場合、その背景に何があるのかを今後さらに解明していく必要があるだろう。いずれにせ

よ、バレーボール大会などのスポーツイベント参加者に対する予防啓発は、今後もイベント時などに行う必要がある。

過去6ヶ月間に使用した施設等に関しては両群間で大きな差は見られなかった。とりわけバレーボール大会群では、ゲイバーの利用が高く、mixiなどのインターネットの利用も高い。これらの媒体はやろっこ群での利用も高いが、両群間での予防啓発においては、これらの媒体の利用は効果的である可能性がある。またハッテン場としては、一般銭湯や野外系ハッテン場などの利用が高い。これらの施設を利用した予防啓発も効果が期待できる。

E. 発表論文等

なし

東北調査2009集計

層	バレーボール(n=40)		やろっこ(n=79)		χ ² 検定
	人数	%	人数	%	
第1層	31	77.5	56	70.9	0.712
第2層	7	17.5	19	24.1	
第3層以降	2	5.0	4	5.1	
計	40	100.0	79	100.0	
居住地	人数	%	人数	%	0.044
仙台市	18	45.0	37	46.8	
仙台市以外の宮城県	7	17.5	12	15.2	
山形県	3	7.5	10	12.7	
福島県	0	0.0	7	8.9	
岩手県	2	5.0	7	8.9	
青森県	7	17.5	2	2.5	
秋田県	3	7.5	4	5.1	
計	40	100.0	79	100.0	
性指向	人数	%	人数	%	
ゲイ(同性愛者)	30	75.0	69	87.3	
バイセクシュアル	8	20.0	8	10.1	
その他、分からない、決めたくない	2	5.0	2	2.5	
計	40	100.0	79	100.0	
年代	人数	%	人数	%	0.118
20代以下	11	27.5	14	17.7	
30代	21	52.5	35	44.3	
40代以上	8	20.0	30	38.0	
計	40	100.0	79	100.0	
今通っている、または最後に通った学校はどこですか？ (一つだけ)	人数	%	人数	%	0.691
中学校	1	2.5	1	1.3	
高校	10	25.0	27	34.2	
短大・専門学校	7	17.5	17	21.5	
大学	18	45.0	30	38.0	
大学院	2	5.0	3	3.8	
無回答	2	5.0	1	1.3	
計	40	100.0	79	100.0	
あなたの職業を教えてください(一つだけ)	人数	%	人数	%	0.343
学生	4	10.0	2	2.5	
アルバイト/パートタイム	5	12.5	10	12.7	
常勤(正規雇用)	18	45.0	43	54.4	
常勤(契約など非正規雇用)	8	20.0	8	10.1	
無職	1	2.5	5	6.3	
その他	4	10.0	10	12.7	
無回答	0	0.0	1	1.3	
計	40	100.0	79	100.0	
過去6ヶ月以内であてはまるものをすべてチェックしてください。あてはまる項目がない方は最後の「いずれもあてはまらない」をお選び下さい。(この問いの中でいう「セックス」とは、フェラチオ、アナルセックス、相互オナニーを指します。)	人数	%	人数	%	
サウナ系ハッテン場に行った	8	20.0	16	20.3	
ビデオボックス系ハッテン場に行った	1	2.5	10	12.7	
野外系ハッテン場(公園やトイレ)に行った	3	7.5	19	24.1	
一般銭湯・スーパー銭湯に行った	15	37.5	33	41.8	
クラブ(男女mix)に行った	0	0.0	4	5.1	
クラブ(男only)に行った	3	7.5	12	15.2	
東京新木場のagehalに行った	1	2.5	0	0.0	
ゲイバーに行った	26	65.0	43	54.4	
お金をもらって男性とセックスした	3	7.5	3	3.8	
お金を払って男性とセックスした	0	0.0	4	5.1	
インターネットで知り合った男性とセックスした	6	15.0	18	22.8	
携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスした	12	30.0	30	38.0	
mixiを利用した	15	37.5	32	40.5	
ゲイのエロ系SNSを利用した	11	27.5	29	36.7	
いずれもあてはまらない	5	12.5	15	19.0	

東北調査2009集計

	バレーボール(n=40)		やろっこ(n=79)		χ ² 検定
	人数	%	人数	%	
あなたは仙台地域で活動している「やろっこ」を知っていますか？					
知っている	30	75.0	64	81.0	0.435
知らない	8	20.0	14	17.7	
無回答	2	5.0	1	1.3	
計	40	100.0	79	100.0	
下記のイベントやプログラム、サイトを知っていますか？(いくつでも)	人数	%	人数	%	
ぼくらの課外授業-Living Together in Sendai-	11	27.5	34	43.0	0.25
男魂-Men Soul-@仙台	12	30.0	39	49.4	0.125
やろっこ交流会	10	25.0	35	44.3	0.118
Love Beach Project(仙台のゲイビーチでの清掃)	7	17.5	33	41.8	0.029
東北バー対抗バレー大会	32	80.0	52	65.8	0.255
Future☆	13	32.5	25	31.6	0.966
ぼくらの課外授業web site	6	15.0	19	24.1	0.516
やろっこホームページ(PC版)	7	17.5	27	34.2	0.16
やろっこブログ(携帯版)	5	12.5	14	17.7	0.762
いずれも知らない	4	10.0	11	13.9	0.83
これまでにHIV(エイズ)検査を受けたことがありますか？	人数	%	人数	%	
ある	21	52.5	45	57.0	0.132
ない	17	42.5	34	43.0	
無回答	2	5.0	0	0.0	
計	40	100.0	79	100.0	
過去1年間にHIV(エイズ)検査を受けたことがありますか？	人数	%	人数	%	
ある	12	30.0	18	22.8	0.574
過去1年間には受けていない	10	25.0	20	25.3	
1年以上前に陽性を確認している	0	0.0	5	6.3	
答えたくない	0	0.0	1	1.3	
無回答・非該当	18	45.0	35	44.3	
計	40	100.0	79	100.0	
最後にHIV(エイズ)検査を受けた場所はどこですか？(いくつでも)	人数	%	人数	%	
保健所	15	37.5	20	25.3	0.152
病院・医院	3	7.5	15	19.0	0.181
国分町夜間検査	1	2.5	4	5.1	0.495
青葉区役所土曜検査	2	5.0	1	1.3	0.307
郡山駅前土曜検査	0	0.0	1	1.3	0.478
土曜検査	0	0.0	1	1.3	0.478
HIV検査イベント・臨時検査会	2	5.0	3	3.8	0.548
自宅検査キット	1	2.5	1	1.3	0.519
その他	1	2.5	5	6.3	0.429
これまでに男性とセックスをしたことがありますか？	人数	%	人数	%	
ある	37	92.5	76	96.2	0.383
ない	3	7.5	3	3.8	
無回答	0	0.0	0	0.0	
計	40	100	79	100.0	
過去6ヶ月間の特定タチとのコンドーム使用	人数	%	人数	%	
1 常用	3	12.5	24	50.0	0.002
2 非常用	21	87.5	24	50.0	
計	24	100.0	48	100.0	
過去6ヶ月間の特定ウケとのコンドーム使用	人数	%	人数	%	
1 常用	6	31.6	22	61.1	0.037
2 非常用	13	68.4	14	38.9	
計	19	100.0	36	100.0	
過去6ヶ月間のその場タチとのコンドーム使用	人数	%	人数	%	
1 常用	5	41.7	28	84.8	0.004
2 非常用	7	58.3	5	15.2	
計	12	100.0	33	100.0	
過去6ヶ月間のその場ウケとのコンドーム使用	人数	%	人数	%	
1 常用	4	33.3	21	84.0	0.002
2 非常用	8	66.7	4	16.0	
計	12	100.0	25	100.0	

東北調査2009集計

	バレーボール(n=40)		やるっこ(n=79)		χ ² 検定
	人数	%	人数	%	
今後、「彼氏、恋人、セフレなど特定相手」とのアナルセックスでコンドームを毎回使いたいと考えていますか？					
毎回使いたい	12	30.0	38	48.1	0.09
できるだけ毎回使いたい	14	35.0	25	31.6	
使いたくない	1	2.5	5	6.3	
考えていない	11	27.5	8	10.1	
無回答	2	5.0	3	3.8	
計	40	100.0	79	100.0	
今後「その場限りの相手」とのアナルセックスで、コンドームを毎回使いたいと考えていますか？					
毎回使いたい	22	55.0	63	79.7	0.014
できるだけ毎回使いたい	9	22.5	7	8.9	
使いたくない	2	5.0	0	0.0	
考えていない	6	15.0	5	6.3	
無回答	1	2.5	4	5.1	
計	40	100.0	79	100.0	
過去6ヶ月間を振り返って、あなたはHIVに感染する可能性がある行動をしたと思いますか？					
全くなかった	14	35.0	21	26.6	0.395
あまりなかった	3	7.5	18	22.8	
少し可能性があった	13	32.5	21	26.6	
十分可能性がある	6	15.0	12	15.2	
わからない	4	10.0	6	7.6	
無回答	0	0.0	1	1.3	
計	40	100.0	79	100.0	
あなたのまわりにHIVに感染した友達や知り合いはいますか？					
いる	8	20.0	28	35.4	0.413
いると思う	10	25.0	15	19.0	
いないと思う	8	20.0	17	21.5	
いない	7	17.5	8	10.1	
分からない	7	17.5	11	13.9	
計	40	100.0	79	100.0	
東北地域に住んでいるゲイ・バイセクシュアル男性の知り合いで過去6ヶ月に実際に会った人は約何人いますか？					
0人	3	7.5	4	5.1	0.107
1-9人	5	12.5	29	36.7	
10-19人	10	25.0	18	22.8	
20-29人	6	15.0	9	11.4	
30-39人	8	20.0	7	8.9	
40-49人	1	2.5	0	0	
50-59人	3	7.5	5	6.3	
60-69人	1	2.5	0	0	
100人以上	3	7.5	4	5.1	
無回答	0	0.0	3	3.8	
計	40	100.0	79	100	
これまでに以下のコンドームを持ち帰ったことがありますか？					
ある	26	65.0	41	51.9	0.173
ない	14	35.0	38	48.1	
計	40	100.0	79	100.0	
以下のような「やるっこ」のポストカードを見たり持ち帰ったりしたことがありますか？					
ある	15	37.5	33	41.8	0.654
ない	25	62.5	46	58.2	
計	40	100.0	79	100.0	

東京の予防啓発の評価に関する研究—2009 年東京クラブ調査報告—

研究協力者：木村博和（横浜市健康福祉局）、佐藤未光（Rainbow Ring、ひかりクリニック）、張由紀夫、荒木順子、木南拓也（Rainbow Ring／財団法人エイズ予防財団）、河邊宗知、柴田恵（Rainbow Ring）、日高庸晴（関西医療看護大学）、中村久美子（MSM 感染対策研究班）、塩野徳史（名古屋市立大学看護学部／財団法人エイズ予防財団）、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

東京におけるゲイボランティアによる HIV 予防啓発プロジェクト Rainbow Ring による各プログラムの効果を評価するため、2009 年 7～8 月に東京地区のゲイ向けクラブイベントの参加者に対して質問紙調査を行い、HIV/STI 予防に関する知識や意識、行動と予防啓発プログラムへの接触状況について調査した。質問紙の総回収数は 1,000 件、このうち回答内容から MSM と判定した 942 人を分析対象とした。分析対象者の平均年齢は 29.9 歳(SD:6.7 歳)、居住地は東京 61.5%、南関東（千葉、神奈川、埼玉）28.5%であった。

啓発プログラムの認知度はコミュニティセンター Akta 47.1%、啓発用コンドーム受け取り経験 39.4%であり 2007 年の調査と同様であったが、HIV 陽性者手記の朗読啓発イベント（LT-ラウンジ 33.6%、LT-のど自慢 22.7%）や啓発用コミュニティペーパーマンスリー Akta の認知度（31.7%）は 2007 年より上昇していた。コンドーム使用状況では過去 6 か月間の常用率は特定相手との挿入時 53.2%、不特定相手 54.7%であり、2007 年より低下傾向を示した。過去 1 年間のコンドーム購入経験者の割合（71.1%）は 2007 年より著しく増加していた。過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率は 47.3%と 2007 年より 10 ポイント上昇していた。施設別の受検率では病院・医院 18.7%、保健所 21.8%、南新宿検査・相談室 9.4%であり、医療機関と保健所の利用が特に増加していた。生涯受検率は 63.2%で回答者の年齢が高いほど生涯受検率も高かった。未受検理由では結果を知るのがこわいから（31.4%）、機会（時間や場所）がなかったから（30.4%）などが多かった。啓発プログラムの接触状況と受検行動との関連をみると LT-のど自慢の認知や啓発用コンドームの受け取り経験では医療機関や保健所の即日検査での受検との間に、LT-ラウンジやコミュニティペーパーの認知では南新宿検査・相談室での受検との間に関連を認めた。

東京地区での多様な HIV/STI 予防啓発プログラムが MSM での受検行動に一定の影響を及ぼした可能性が示唆された。予防啓発プログラムにおいて陽性者への支援等を含む HIV 感染症に関する多彩な情報提供が予防行動の変容に必要であると考えられる。

A. 研究目的

東京地区では 2002 年 9 月からゲイボランティアによる HIV/STI 予防啓発プロジェクト Rainbow Ring が、新宿二丁目のゲイコミュニティや HIV 陽性者支援等の NPO と連携しなが

ら、MSM(men who have sex with men)に対して予防啓発プログラムを実施してきている。2003 年 8 月には新宿二丁目に活動拠点としてコミュニティセンター(Akta アクタ)を開設し、活動の実体を顕在化させ、予防啓発のより一